

有縁の皆さんでお読み下さい

門徒とは浄土真宗の教えをよりどころとして生きる念仏者のことを言う

お念仏の 家族になろう

毎月 25 日発行
お寺のかわら版
浄土真宗
純正寺報

青色青光 No.334



発行責任者：浄土真宗本願寺派 護法山 純正寺 住職 釋 覚恵（漢見覚恵）
〒 522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29 TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829
メールアドレス：purity-temple.since1499@nifty.com

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

春季彼岸会

三月十七日（日曜日）

午前十時から正午まで
午後一時半から三時半まで

勤行（午前・午後共）

『正信偈念仏偈和讃』

法話（午前・午後共）

岐阜県岐阜市願明寺

能美 真由良 師

法題（午前・午後共）

「浄土真宗に

生きるよろこび」

※昼食が必要な方は、午前のお勤めが始まりますまでに受付へお申し込みください。（実費五百円）

こんき常例布教

3月25日（月）

10:00～12:00 13:30～15:30

法話 純正寺住職 釋 覚恵

法題
「浄土真宗の
救いのよろこび」

YouTube 純正寺チャンネル

LINE 純正寺公式アカウント

純正寺公式ホームページ

facebook 常朝事チャンネル



純正寺の法要は「YouTube」で、常朝事は「facebooklive」で、それぞれ生配信でも録画でもご参拝・お聴聞していただけます。

住職法話 我聞如是

われかくのごとくきく

浄土の真を宗とするのが門徒①

門徒推進員中央教修をふりかえって

門徒とは

あなたにとって「門徒」とはどういう意味ですか。それは、先祖代々お寺と繋がりがあある家という意味ですか。それならば「檀家」でも良いですよ。でも、浄土真宗の人だけは檀家とは言わず門徒と言います。なぜかという、「門徒」とは浄土真宗という「教え」をよりどころにして生きる人（念仏者）のことを言い当てた言葉だからです。

二月九日から十二日までの四日間、私は「第二八四回門徒推進員中央教修」にスタッフとして参加してきました。中央教修とは、全国各地の「組（そ）」で開

催されている「門徒推進員養成連続研修会（全一二回、略称「連研」）」を修了した人だけが受講することができる、私たちの宗派内の門徒対象の研修会で最も充実した研修会です。コロナ禍で、なかなか開催されなかったこともあり、私は四年ぶりの参加となりました。

今回の中央教修には、全国各地から二十六名の各組の連研修了者が本願寺間法会館に集まりました。三泊四日のこの教修は、全部で五回の話し合い法座を中心に日程が組まれていきます。一方的に法話を聞くのではなく、自分や他人の思

いを聴き合うのが話し合い法座です。今回の教修では、二十六名の教修生が五班に別れて班別話し合いが行われ、この法座を通じて自分が浄土真宗の門徒であることを自覚することが、中央教修の願いと目的です。

門徒推進員とは

初日の午後の第一法座は「であい」というテーマでの話し合いでした。初対面の教修生同士とスタッフとの関係の緊張感をほぐす、自己紹介などの「アイスブレイク」から始め、教修生が各々連研や中央教修への参加に至った経緯を、様々な「であい」の字（会・合・逢・遭・遇）を通じて話し合いつつ、人や事象とのであいやつながりを確認し合う法座になりました。まとめでは、時

代や年代や環境によって変化する価値観の中で、教修生に共通したブレない価値観とのであいが連研であったことを確認しました。

その日の夜は、「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」の講義でした。講義の中では、親鸞聖人の時代から脈々と続く「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」という念仏者の運動が、今日の連研や中央教修の営みに繋がっていること。門徒推進員とは、推進員という資格を取得するのではなく、これまで無自覚的であった「形ばかりの門徒」から、浄土真宗の教えをよりどころにして生きる念仏者としての「真の門徒」になるための営みであること。そして、翌日に受式する帰敬式は、これまで「死んだらおしまい」で生きて

きた虚しく過ぎるいのちから、浄土に生まれゆく豊かないのちに生まれ変わる式(二度目の誕生日)で、その証として頂くのが「法名」なので、法名は頂くだけではなく、この限りあるいのちが終わるまで名のり続けることが大切だということ学びました。

二日目の朝は、午前六時から本願寺本堂での晨朝勤行(朝のお勤め)です。朝日が昇るほどに冷えてくる本堂で、皆で声高らかに『正信念仏偈和讃』を拝読しました。

勤行終了後は、いよいよ帰敬式です。今回の教修生の半数に当たる十三名の方が受式され、教修生代表の方が法名を拝受、帰敬文を読み上げられました。寒さの中、厳粛な「二度目の誕生日」となりました。

浄土の真(まこと)を

宗(むね)とする

二日目の午前中の第二法座「私の宗教」では、問題提起で第一法座の「変化する価値観とブレない価値観」を手掛かりに、「宗教」とは「私が教えをよりどころにすること」と確認した上で、「浄土真宗の教義」の中「教義」「生活」「宗門」を紹介しつつ、日常生活の中にある様々な「お付き合い」を通じて、住職や坊守や教えとの関係性を提起されました。各班での話し合いでは、地域での「お付き合い」のことが主に話題となり、時折住職や坊守との関係が話題に上がるものの、浄土真宗の教えを「お付き合い」ではなく「よりどころ」と認識するということろまではなかなか難し

かったようです。しかし、そのことを受けたまとめでは、「寺檀制度」「真俗二諦」「現実を生きるよりどころ・苦悩を乗り越えるよりどころ」「み教えを聞くから、み教えに聞くへ」というポイントを押さえながら、門徒が教えをよりどころと認識していない原因が僧侶の姿勢にあることを謝罪しつつ、浄土真宗を苦悩を乗り越えて生きるよりどころであることを共有・確認しました。

浄土のカケラが

みつかる

午後からは第三法座「浄土(救いと歩み)」。問題提起では、第二法座の「苦悩を乗り越えて生きるよりどころとしての浄土真宗」を「起点に、「浄土を真の宗とする」とは如何なることなのかを、私の限りあるいのちの確かな行方がお

浄土であるという死に直結する浄土も確認しつつ、浄土が生きる私を常に照らす光のはたらきであることを踏まえて、その光に照らされる日常の中にある「浄土のカケラ」に気づくというキーワードで話し合いに臨みました。その結果、各班の話し合いでは自然な流れと雰囲気の中で、喜びに繋がる浄土のカケラに各々が気付く、その安心感の中では自己開示も行われたようです。各班会での教修生とスタッフとの温かい信頼関係が育ったようです。まとめでは、親鸞聖人のお言葉や小学生の手紙を紹介しつつ、浄土のはたらきの中で見つけたり気づかされた「カケラ」は、喜びだけではなく痛みや悲しみもあることを共有しました。

次号に続く



純正寺3月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を超えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。



今月のエコキャップ 一、六三一、〇六九個 二月は、六四九三個のペットボトルキャップが集まりました。

キッズサンガ「ほとけの子ども会」

2日(土)・16日(土)
10:00~12:00

就学前・小・中学生対象

『らいはいのうた』のお勤めの後、仏典童話の読み聞かせと楽しい遊びタイムです。

ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

10日(日)・23日(土)
16:00~18:00

小学生・中学生対象

教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。休憩時には、おやつもあり。

ヨガ風ストレッチ「びはーら体操」

5日(火)・19日(火)
10:20~11:30

年齢・性別は問いません

お香とインド音楽の中でのヨガ風ストレッチで、強くても柔らかな身体と心を作りましょう。

みんなの食堂ビハーラ

14日(木)・28日(木)
17:00~19:00

年齢・性別は問いません

子どもからお年寄りまで、誰でも参加できる楽しい食事と学習の時間。事前にお申し込みください。

暑さ寒さも「春季彼岸会」

17日(日)

10:00~12:00.13:30~15:30

年齢・性別など問いません

真西に沈む太陽に、私の確かな命の行方をお浄土といただく日。法話は、能美真由良師です。

世のなか安穏なれ「ビハーラ彦根」

17日(日)

18:00~20:00

年齢・性別は問いません

参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

「月例法話座談会」

19日(火)
14:00~16:00

年齢・性別は問いません

日常の「何故？」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

みんな法友こんき常例布教

25日(月)

10:00~12:00.13:30~15:30

年齢・性別などは問いません

所属寺の枠を超えて、法朋ができる法座です。法話は、純正寺住職の釋覚恵です。

彦根組後援「てられんけん」

24日(日)

14:00~17:00

年齢・性別は問いません

門徒推進員養成の連続研修会。第10回目は、親鸞聖人の教えと座談会です。

能登半島地震災害
支援金等ご協力の現況
先月に続き、今月も支
援金六万五千円のほか、
飲料水やお米のご支援
を頂き、二月十八・十九
日に輪島市の避難所
にお届けいたしました。

住職が聴きます「よろず相談」

随時、年齢性別は問いません
生きることが辛くなる前に、
早めに気軽にご相談下さい。

相談予約専用電話番号は、
090-7874-2849
相談予約専用メールアドレスは
namo-yorozu@docomo.ne.jp

清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:50

年齢・性別など問いません

『正信念仏偈』と『和讃』の繰り読み、『御文章』の拝読と住職の法話があります。Facebookでライブ配信もしています。